

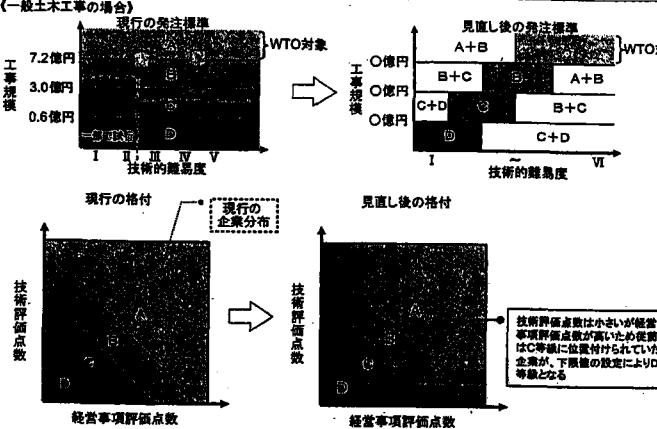
技術力重視 鮮明に

新たな企業評価で方向性

野伸栄北大大学院工学研究院准教授)で検討を進めている。▽発注標準▽企業格付け▽技術評価点数(主觀点数)の算定式――の3つの見直しについての方向性を明らかにした。技術力を優れた企

受注機会を拡大するな ど、企業の実績や努力が 受注者の選定で適切に反 映される仕組みを構築す るために、「上位等級制度」 を指すインセンティブ(勵 機付け)→技術力と経営 力の適正なバランスへ新 規参入の促進▽等級に応 じた品質確保――の4点 を実現する。	10年度の競争参加資格審 査から適用する方針を明 確化。具体的な手法は、実 データに基づいて分析を実 施し決める。
	技術難易度応じ 等級を拡大重複

向性に基づくシミュレー
ション分析を実施した上
で、12月上旬から200
8年1月上旬にかけて建
現行の発注標準は、工
事規模(金額)だけで区分
しているため、技術力の
8



すべての案を採用した場合の技術評価点数の算定式の例(数値はすべて例示)

$$\begin{aligned} \text{技術評価点数} = & \Sigma ((\text{成績評定}) - 70) \times (\text{技術の難易度}) \times \text{Log}(\text{工事規模}) \times (\text{総合評価}) \times (\text{部局係数}) \\ & \times (\text{調整係数}) \times (\text{直近係数}) \\ + \Sigma & \{ ((\text{技術の難易度}) \times \text{Log}(\text{工事規模}) \times (\text{総合評価}) \times (\text{部局係数}) \\ & \times (\text{調整係数}) \times (\text{直近係数})) \} \\ + \Sigma & \{ ((\text{成績評定}) - 70) \times \text{Log}(\text{工事規模}) \times (\text{部局係数}) \times (\text{直近係数}) \} \end{aligned}$$

がたこの見直し案は、主観点数の算定に大きく影響するため、その緩和

級に格付けされる場合がある。たゞ、各等級に対し、主工事成績の平均点は約65点を標準とし、その点数のそれより下限値を設ける。

主観点数の算定式	主観点数の算定式
成績評定から の除外点数引上げ	成績評定から の除外点数引上げ
等級は経験力 の比率が高い もの欄にあたる ものだため	等級は経験力 の比率が高い もの欄にあたる ものだため
主観点数の算 定式	主観点数の算 定式
このため、一期が長く い企業が経験 と不況との指摘があ りなどして、工事成績の 評定点数(減点率) が事故のために減点の 割合が上昇する。	これは、事故による工事 成績の減点が必ずしも 関係なく一律となり てしまうため、一期が長く い企業が経験と不況との 指摘があるなどして、工事成績の 評定点数(減点率)が 事故のために減点の 割合が上昇する。

「等級に混在している。それに加え、上位または下位等級工事への参加がほとんど認められ、上位工事規範だけでなく、技工のセンティア（動機付け）が欠けていた。」このため、国交省は、「各等級の領域を拡大・重複させ、技術力の高い企

に下限値を設定
企業格付

の工事に参加できるものを見直す。
また、工事分野別の評価を試行導入し、特定の工事分野で技術力が優れる企業の競争参加機会を拡大する。具体的には、橋梁下部工事分野で技工士による評価に当たっては、工事分野別の成績点数や主觀点数を活用して、工事分野別評価に反映する。
い企業の排除が狙いで、

した効率施設の改革は、大手から地方の中堅、中小企業まで幅広い影響を与える可能性がある。

地場の大手セメントが属するB級会員、全国建設業協会会員の多くが属する等級の競争環境が地方建設業界にとって変する可能性が示されているからだ。

19年 11月 7日

建設通信新聞